

先輩から後輩へ

都道府県	神奈川県	学校名等	鎌倉女学院高等学校
名称	「高校生が教える情報モラル教育」		
目標(狙い)	高校生が年齢の近い中学生に「インターネットの正しい使い方を教える授業」(以下、「授業」という。)をすることで、中学生はもちろんのこと教える側の高校生も授業づくりを進める過程で情報モラルに関する理解を深めてもらうことを目標とした。		
(具体的な取組等の内容)			
【概要】			
<p>高校生による中学生に対するネットリテラシー講座の実施を通じて、講師となる高校生は「授業」を実施するためにネットリテラシーやプレゼンテーション方法を深く学んでいくとともに、生徒となる中学生は同年代の講師から同年代の言葉で情報モラル教育を受けることにより、共感を覚えて理解度も高まることが期待できる取組。</p> <p>今後は、同校の高校2年生全員による中学1年生への「授業」実施について、取組を行っているところ。</p>			
【実施時期・回数】			
<ul style="list-style-type: none"> 平成25年4月27日～7月13日(土曜講座として実施) 計7回の授業。授業時間は計24時間(3時間×6コマ、6時間×1コマ) 			
【参加者】			
<ul style="list-style-type: none"> 鎌倉女学院高等学校の生徒(12名)、中等部の中学1年生(40名)、教員 広告関係企業・ネット事業者・関係団体等からの講師 			
【講義等の構成】			
授業の展開については、次表のとおり。			
第1回 (4/27) 3時間	<p>【目的】講師・生徒の距離を縮めるとともに、授業内容を把握する</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者(生徒・講師)同士での自己紹介 授業の取組内容や目的についての共有 講師による講義 (「ネットの危険性」と「バランスのよいネットの使い方」について) 		
第2回 (5/11) 3時間	<p>【目的】情報モラルについて深く学び、小学生に教えるきっかけを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> 講師による講義 (「情報発信の仕方」と「コミュニティサイト」について) 疑似SNSサイトを利用しSNSの危険性について体験 「授業」の対象となる小学生について知るために、小学校高学年の男子、女子のイメージ(好き/嫌いなもの、時間の使い方、期待されていること、気持ちなど)について共有 		
第3回 (5/25) 3時間	<p>【目的】小学生にどう教えるかを学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際の「授業」で教える内容の案出し(前回の授業で印象に残った点を挙げ、そこから小学生に伝えたいことを選び、重要度をつけていく) 表現アイディアの事例(公共テーマの広告賞受賞作品集)を見て、 		

	<p>伝え方の手法を学んだ後、個人で「授業」のキャッチコピーや授業内容を考え発表</p> <p>※ 発表に対するフィードバックを参考に、新しい授業を考えてくることを宿題</p>
<p>第4回 (6/8)</p> <p>3時間</p>	<p>[目的] 表現アイデアを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> 講師による講義 (「インターネット上のトラブル・リスクや怖さ」について) 「授業」で使うキャッチコピーの決定 宿題の「授業」の企画案を発表し、講師のアドバイス・小学生向けのゲームの体験を通して、新たに企画書を作成
<p>第5回 (6/29)</p> <p>3時間</p>	<p>[目的] コンテンツの制作</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が作成した企画書を参考に「ゲームアクティビティ」と「劇」を授業内容に決定し、チーム分けを行った(「ゲームアクティビティ」、「劇」、「MC」の3チーム) 各チームでコンテンツを作成
<p>第6回 (7/6)</p> <p>6時間</p>	<p>[目的] コンテンツの制作</p> <ul style="list-style-type: none"> コンテンツの制作及びリハーサル
<p>授業 (7/8)</p> <p>30分</p>	<p>中学1年生(40名)を対象に今までの授業で作り上げた「授業」を実施</p>
<p>第7回 (7/13)</p> <p>3時間</p>	<p>[目的] 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業」を受けた中学1年生のアンケート結果の分析 各自が自分ならどのように情報の授業を行うかをプレゼン

注：表中に「小学生に教える」などという記載があるが、これは当初は小学生向けに「授業」を行うことを想定して取り組んでいたためである。

【結果（参加者の感想等）】

「授業」に参加した中学生（40名）にアンケートをとると、実に92.5%の生徒が内容を理解できたと答えた。年齢の近い高校生から直接教わるのは、共感も得やすく理解度が高まったようであった。また、高校生も教える側として真剣に勉強するため、高校生のネットリテラシーも上がったようであった。

※ 感想の例（小学生）：「カメラやスマートフォンで写真を撮ったら、位置情報が記録されることがわかった」、「授業内容を友だちや親に教えたい」

【本授業を実施する際の留意点】

この取組の実施にあたっては、「授業」を行う高校生に対し、ネットに関する知識と授業の構成に関する知識を事前に身につけてもらう必要がある。特に、ネットに関する知識については、鎌倉女学院高等学校のように外部講師を呼ぶことができない場合は、情報の教科書や国・自治体・企業等が作成している啓発資料等を活用いただきたい。

写真・図表等

<授業風景1：講義を受ける生徒たち>



<授業風景2：生徒同士での意見交換>



<授業風景4：アイデアを発表する生徒>



<授業風景5：アクティビティを活用した講義>



<授業風景5：中学生への「授業」の実施①>



<授業風景6：中学生への「授業」の実施②>



都道府県	石川県	学校名等	金沢工業大学
名称	情報セキュリティスキルアッププロジェクト		
目標(狙い)	<p>近年、子どもたちがパソコンや携帯電話、スマートフォン、タブレット型端末などでインターネットを利用する機会が急激に増加し、それによってさまざまな問題が生じている。中でもネット上のいじめが、深刻化していることを踏まえ、金沢工業大学の「情報セキュリティスキルアッププロジェクト」では、石川県警察本部、金沢市、地元セキュリティ関連企業の専門家と連携し、インターネット使用のエチケットやコミュニケーションアプリなどのソーシャルネットワークサービスに潜む危険性について、地域での周知啓発に取り組んでいる。</p>		
<p>(具体的な取組等の内容)</p> <p>【概要】</p> <p>同大学の情報系学生が運営する「情報セキュリティスキルアッププロジェクト」では、金沢市等との地域連携の一環として、小中学生とその保護者を対象とした「ネットいじめ防止のための情報セキュリティ教室」を実施している。</p> <p>普段は情報セキュリティ技術の向上に取り組んでいる中、今年度よりボランティア活動による地域貢献の一環として、中学生等に学んでもらう場として「情報セキュリティ教室」を開催しており、地域の情報リテラシー向上の他、参加する学生たちの知識・技術の定着や発展、情報を伝達するコミュニケーション能力の向上に役立っている。</p> <p>【取組結果】</p> <p>①金沢市立泉中学校（金沢市弥生1丁目26番1号）</p> <p>時 期：平成26年7月9日（水）</p> <p>参加者：中学1～3年生 420名</p> <p>内容等：プロジェクトメンバー1年生3名が講師を担当し、ネットは便利な面がある一方、ネットいじめの事例を通じて「誤解を招く発言は控え、相手がどう受け止めるかを考えて！」と注意を呼びかけた。当日は、学生がネット上のいじめを題材に、いじめを防止するためのインターネット使用のエチケットやコミュニケーションアプリなどのソーシャルネットワークサービスに潜む危険性について講演を行い、インターネット利用に対し正しい判断力や態度について学習を深めた。</p> <p>②金沢市立湯涌小学校・芝原中学校（金沢市湯涌荒屋町23）</p> <p>時 期：平成26年7月16日（水）</p> <p>参加者：小学4年～中学3年生 59名</p> <p>内容等：同上</p>			

写真・図表等

(1) 金沢市立泉中学校において金沢工業大学1年生が講師を担当



引用：金沢工業大学 産学連携教育研究プロジェクト

(2) 情報セキュリティスキルアッププロジェクトにおいて企画・検討中



引用：金沢工業大学 産学連携教育研究プロジェクト

都道府県	兵庫県	学校名等	兵庫県立大学
名称	ソーシャルメディア研究会 (兵庫県立大学ソーシャルゲーム研究会 から名称変更)		
目標(狙い)	兵庫県立大学の学生が中心となり、産学官の連携のもと、携帯電話やスマートフォンの弊害から子供達を守っていくための方策について、検討・検証、具体的な実践を通して、地域における学生のリテラシー向上に資する活動を目指す		
<p>1 取組成果等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県青少年課主催の研修会において、学生が主体となりスマホについての講演を実施 ・スマートフォン・アプリ（スマホにひそむ危険（疑似体験））作成と公開 (グーグルプレイ等で配布中) ・猪名川町、神戸市、滋賀県、大阪府等の中高生のスマホ対策支援 ・神戸市全167小学校でスマホについての授業実施中 ・兵庫県警察、学生サイバー防犯リーダーとしての活動中 <p>2 総務省施策等との関連性</p> <p>近畿総合通信局電気通信事業課が事務局を務める「スマートフォン時代に対応した青少年のインターネット利用に関する連絡会（略称：スマホ連絡会（近畿）」の分科会として位置づけ、同連絡会の活動のひとつとして実施。</p> <p>3 実施概要</p> <p>「携帯電話・スマホの弊害から子供たちをどう守るか」を目的に、スマホ連絡会（近畿）座長を務める兵庫県立大学・竹内准教授のゼミ生と関係団体から構成される研究会であり、産学官連携のもと学生目線による学生のリテラシー向上に資する活動を展開している。</p> <p>スマホ連絡会の分科会である本研究会は、学生が運営し、経験を踏まえたスマホでの陥りやすい問題について現状分析や解決策を検討、さらに関係団体との協働において具体的な実践や成果物を作成している。</p> <p>毎週木曜日19時から兵庫県立大学環境人間学部で活動しているが、これまで2回の大きな会合を開催している。</p> <p>(1) 第1回「ソーシャルゲーム研究会」研究大会 平成25年10月3日(木) 兵庫県立大学</p> <p>【主な議題等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究会の設立について ・今後の取組の方向性について <ul style="list-style-type: none"> ① 「啓発動画コンクール」の開催に向けた検討 ② 年代別の疑似体験用アプリを作成（デジタルアーツが作成のサポートを行う） 			

③ 講演会、セミナー等で学生が登壇し実体験を交えた話を披露する。

(2) 第2回「ソーシャルメディア研究会」研究大会
平成26年3月5日(水) 兵庫県立大学

【主な議題】

- ・名称変更 「ソーシャルメディア研究会」に名称変更
- ・研究会メンバーによる取組発表
 - ①デジタルアーツ 疑似体験アプリ製作—3作品完成(平成26年3月10日リリース)(兵庫県立大生のシナリオ—2作品、羽衣学園高等学校からシナリオ1作品を提供)
 - ②30秒の啓発動画作品の披露
 - ③講演会実施についての説明
- ・ソーシャルゲーム研究会の取組経過を踏まえた今後の活動
 - ①コンテストの開催検討
シナリオコンテスト(パワポを想定) HPにアップ
30秒啓発動画
 - ②中・高校生支援
次世代に[大学生、高校生と一緒に](猪名川モデル)
スマホ生徒手帳作成
出前授業 猪名川—3中学(26年度に)兵庫県下の取組紹介
 - ③アンケート調査の実施(小学4年生から)
SNS、ゲーム関係

4 期待される効果

- ・学生目線による、より実効性の高いリテラシー向上の活動展開
- ・参加学生のリテラシー向上に関する意識向上やコミュニケーション能力の醸成
- ・リテラシー向上に関する広範な啓発活動に寄与
- ・産学官の協働のもと団体間交流と青少年参画による地域の連携と新たな取組展開

5 その他

【研究会参加メンバー】

兵庫県立大学 環境人間学部 准教授 竹内 和雄(スマホ連絡会 座長)

兵庫県立大学ソーシャルゲーム研究会(兵庫県立大学 学生多数)

近畿総合通信局 電気通信事業課

京都府警察本部 サイバー犯罪対策課

兵庫県警察本部 サイバー犯罪対策課

兵庫県警察本部 少年育成課

デジタルアーツ株式会社

(株)ディー・エヌ・エー

(公財)関西消費者協会

猪名川町青少年健全育成推進会議

猪名川町教育委員会

●研究会の様様



△ソーシャルメディア研究会 研究大会の様子